

若さが探る 教育の希望と反転再生

「ブラック企業」という言葉が社会的にも認知されるなか、若年労働者の労働環境・条件の劣悪さが注目されている。若い教師の労働環境・労働条件はどうだろうか。

この間『教育』誌上において明らかにされてきた若手教師の困難は、教師固有の問題だけではなく、現代における若年労働者の働かされ方の問題と大きく重なっている。十分なサポートを受けられないままに「即戦力」を求められ、業務が集中し、人間らしい時間が奪われる。教師の力量形成に不可欠な自主的・自発的な学びから若い教師を疎外しておきながら、パターナリスティックに囲い込み、そのなかで、「学び続ける教師」であると強要する。教育への管理・統制強化と比例して、この矛盾は増大する。

しかし、一方で、「しなやかに、したたかに」子どもたちと向きあい、職場の内外を問わず自らの実践を問い直し、仲間との関係を紡ぎあい、困難を希望に変えてきた、若い教師たちのリアルな姿が、『教育』誌上にある。このような教師たちは、全国の若い教師たちのなかでは「少数派」かもしれないが、決して「少数」ではない。困難を希望に変えていく若い教師たち。彼らのいとなみのなかには、困難な状況下を「生き凌ぐ技法」がある。

本特集に登場する若い教師たちの現実（リアル）と、それぞれの「生き凌ぐ技法」のなかに、「教育再生」の名において壊されつつある私たちの教育を、反転再生していく道すじがある。